

分子研シンポジウム2018

担当教員 2018年度担当教員
総研大物理科学研究科構造分子科学専攻 准教授 古賀 信康

平成30年6月15日に岡崎コンファレンスセンター小会議室において分子研シンポジウム2018を開催しました。本シンポジウムは、オープンキャンパスの前日に開催することが恒例となっており、オープンキャンパス参加者や所内の学生、研究者にとって、計算・電子・材料・生物・触媒など、各分野でご活躍の分子研OB・OGの先生方のご講演を拝聴できる絶好の機会となっています。分子科学研究所の主要な行事のひとつで、平成19年から始まり本年は12回目の開催となりました。

今年度、分子研シンポジウムでご講演いただいた先生方のご芳名と講演題目は以下のとおりです（講演順に記載）。坪内雅明先生（量子科学

技術研究開発機構 上席研究員）「テラヘルツ光で探る分子科学：基礎科学から産業応用へ」、木村哲就先生（神戸大学 特命講師）「マイクロ流路デバイスを用いたタンパク質のダイナミクス観察」、倉重佑輝先生（京都大学 特定准教授）「化学における電子の絡み合い——多参照電子状態理論」、坂東俊治先生（名城大学教授）「ナノ空間に広がる科学：層状物質を作るナノメートル空間」。参加登録者は所外52名でした。当日は、所内からも、多くの皆様にご参加いただき、小会議室は満席となりました。講演では、研究のお話に加え、各講師の先生と分子研との関わりが紹介されました。随所で分子研や総研大への愛着が感じられ、私



たちにとっても大変励まされる内容でした。講演会の後は、中会議室に移動して懇親会を行いました。講演していただいた先生、所外の参加者、所内の教員、学生が交流する貴重な機会となりました。

今回のシンポジウムを通じて参加者の皆さんには分子科学の多様性ととも、その基礎を支えている分子研の存在を感じていただけたものと思います。お忙しい中、ご講演いただいた講師の先生方、ご協力いただきましたPIの先生方、スタッフの方々にこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

分子研オープンキャンパス2018

担当教員 2018年度担当教員
総研大物理科学研究科機能分子科学専攻 准教授 榎山 儀恵

平成30年6月16日（土）、岡崎コンファレンスセンター中会議室ならびに明大寺地区、山手地区の各研究室において、分子研オープンキャンパスを開催しました。本事業は、他大学の学部学生、大学院生、若手研究者らに、分子研の研究環境や設備、大学院教育システム、研究者養成活動を紹介し、分子研や総研大への理解を深めていただくことを目的として、毎年、初夏の候に実施されてい

ます。本年度は、遠方からの参加者が無理なく参加できるように、開始時刻を9時30分から11時に繰り下げました。

はじめに、岡本総主幹、平本教授より、分子研ならびに総研大の概要をご説明いただきました。続いて、昼食を取りながら、研究室紹介（古賀G、古谷G、小林G、加藤（晃）G、秋山G、飯野G、杉本G、榎山G（発表順））を行いました。最後に、筆



者がオープンキャンパスの概要を説明し、参加者の皆さまには、16時まで、明大寺・山手の両地区の公開研究室を自由に訪問、見学いただきました。

本年度の参加者は52名であり、その内訳は、学部学生41名、大学院生6名、大学教員2名、中学教諭

1名、民間企業2名でした。分子研OB・OGからの紹介による参加者に加え、分子研に併設されている総研大二専攻の大学院受験を念頭に、研究室訪問をしている参加者が多くみられました。実際、構造分子科学専攻ならびに機能分子科学専攻では、5年一貫博士課程の受験者数が増加

し続けています。自由に研究室を訪問・見学でき、指導教員やグループメンバーと歓談できる本事業は、分子研に併設されている総研大二専攻への入学を考えている学生にとって、大変有意義な機会になっているように思います。

最後に、お忙しいところ、分子研

をわかりやすく説明してくださいました岡本総主幹、総研大の説明に研究所でのご経験を交え熱心にお話しくださいました平本先生、研究室紹介をしてくださいました先生方、本事業にご協力くださいました関係者の皆様に、この場をお借りいたしまして、深く御礼申し上げます。

平成30年度3月総合研究大学院大学修了学生及び学位論文名

| 専攻 | 氏名 | 博士論文名 | 付記する専攻分野 | 授与年月日 |
|--------|-----------------------|--|----------|-----------|
| 構造分子科学 | 深津 亜里紗 | Studies on Electrochemical Responses of Molecular Compounds in Homogeneous Solution under Photoirradiation | 理学 | H30. 3.23 |
| | CHINAPANG, Pondchanok | Design and Construction of Framework Catalysts for Hydrogen Evolution | 理学 | H30. 3.23 |
| | XU, Qing | Design and Synthesis of Covalent Organic Frameworks for Electrochemical Energy Storage and Conversion | 理学 | H30. 3.23 |
| 機能分子科学 | 新宅 直人 | Effects of charge carrier behavior on device performance of organic solar cells | 理学 | H30. 3.23 |

総合研究大学院大学平成30年度(4月入学) 新入生紹介

| 専攻 | 氏名 | 所属 | 研究テーマ |
|--------|-----------|----------------|--|
| 構造分子科学 | ALI, Asad | 物質分子科学研究領域 | Intercalation of hydride ions in battery systems |
| | 岡本 啓 | 物質分子科学研究領域 | 新規ヒドリドイオン導電体の合成、構造、物性 |
| | 石見 輝 | 生命・錯体分子科学研究領域 | Controlling self-assembled structure of metal cluster based coordination complexes |
| | 赤井 拓哉 | 生命・錯体分子科学研究領域 | 多核金属錯体を触媒とする光化学的多電子還元 |
| | 石原 芽衣 | 生命・錯体分子科学研究領域 | PCET サイトを有する多核金属錯体の触媒機能評価 |
| | 加藤 壮志 | 生命・錯体分子科学研究領域 | 自己集合性を有する触媒分子の開発と反応の可視化 |
| | 友田 美紗 | 生命・錯体分子科学研究領域 | プロトン内包型5核金属錯体の研究 |
| | 藤澤 真由 | 生命・錯体分子科学研究領域 | 多核ユニットを含むフレームワークの構築 |
| | 鍋井 庸次 | 協奏分子システム研究センター | 有機物を用いたスピントロニクス |
| | 山田 寛子 | 生命創成探求センター | ATP 結合ポケットを持つ新規タンパク質のデザイン |
| 機能分子科学 | 菅原 湧斗 | 生命・錯体分子科学研究領域 | ヨウ化ペルフルオロアリアル骨格を有するオリゴマー型ハロゲン結合供与体触媒の合成 |
| | 谷 和紀 | 生命・錯体分子科学研究領域 | 固相担持単原子遷移金属触媒の創製と触媒的有機分子変換への応用 |
| | 堀 達暁 | 生命・錯体分子科学研究領域 | ハロゲン結合を鍵とする高分子固定化求核触媒の開発 |
| | 関口 太一郎 | 生命創成探求センター | 蛋白質超分子複合体のアッセンブリー機構の解明 |